

開催記録

名 称	第2回会津美里町立小中学校適正規模・適正配置検討委員会
開催日時	令和4年11月24日（木）午後6時30分～午後8時10分
開催場所	本庁舎 大会議室
出席者	（委員） 水野委員・藤田委員・坂口委員・星野委員・薄委員・木村委員・佐治委員 坂内委員・小林委員・横地委員・大堀委員・森山委員・風間委員 （順不同：委任状提出1件） （事務局） 歌川教育長・渡部こども教育課長・小野主幹兼指導主事・目黒課長補佐 長嶺学校教育アドバイザー・菊地総務係長・渡部主任主査
議 題	○協議 （1）第1回検討委員会後にいただいたご意見について （2）小中一貫教育の推進について （3）その他
資料の名称	「第2回会津美里町立小中学校適正規模・適正配置検討委員会会議次第」
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開 会（省略）</p> <p>2 教育長あいさつ（省略）</p> <p>3 議 事（座長：水野議長）</p> <p>1）第1回検討委員会後にいただいたご意見について（事務局より説明） ※特になし。</p> <p>2）小中一貫教育の推進について（事務局より説明） （委 員）本郷の検討委員会の構成メンバーをお聞きしたい。 （事務局）まず、小中学校の校長先生がお二人、それから本郷こども園の園長先生、本郷小学校と本郷中学校、本郷こども園のPTAの代表の方が出席している。それから地域の区長会の代表の方、学校運営協議会の会長さん、地域の方から公募のあった委員さんお一人。そして教育委員会が必要だと認める者ということで、新鶴こども園の園長先生が入っている。以上10名で構成されている。</p>	

(委員) 私は今年度からこの委員会に入って、今日2回目だが、小中学校適正規模・適正配置検討委員会のやるべきことは何なのかなと思った。というのは只今の本郷地域施設等整備検討委員会では既に義務教育学校を前提として、服装、校名とか、その他校歌まで議論されているとのこと。というようなことであるとすれば、義務教育学校にするということは、もう決まっていると考えてよろしいか。

(教育長) 適正規模・適正配置検討委員会の使命というのは、前回第1回の資料でもお示した通り、設置目的としては小中学校の適正な規模とその配置に関する検討を、教育委員会からの諮問によって調査・検討して頂くという事がお役目となっている。ただ、冒頭の挨拶でも申し上げた通り、適正規模・適正配置に係る、いわゆる統廃合については当座予定しないという結論を昨年度頂いていることから、直接的な調査・研究・検討を諮問している段階ではない。現在はそういったことではなくて、小規模の学校であっても教育内容を充実することで対応していきたいということで、昨年来この充実策についてご説明を申し上げているところである。その内容について、直接的にこの検討委員会の目的ではないため、ご説明をしながら必要な意見があれば、私どもは拝聴しながら施策に反映させていただきたいと考えているところである。それから義務教育学校化の決定については、教育委員会の方で説明・決定をしており、それから町内部の協議の中でも、総合教育会議の中で昨年度説明をさせていただき、町長からも推進について指示を頂いているところである。それから議会についても、昨年12月の全員協議会で説明を申し上げ、異論がなかったところである。

(委員) そうするとこの会で、前日も教育長さんから説明があったが、色々なプロジェクトについてはお知らせするだけということの内容になるということか。

(教育長) お知らせするだけというよりは、ご説明申し上げるので、皆様方からもご意見があれば拝聴するという事でこちらから説明をさせていただいているところである。

(委員) という事は、義務教育学校は決定事項という事で進めていくことになるのか。

(教育長) そのようになる。先日開催させていただいた本郷中学校での保護者への説明会後に実施したアンケート結果などを見ると、理解がまだ十分ではないというところもあると考えている。ただ、60数パーセントの保護者、それからお子様方から、義務教育学校に対して期待する、賛同するという趣旨の回答を頂いているところである。

(委員) 小中連携教育、これは今までずっとやってきたことである。だから小中連携の充実というのはもう成っていると思っている。そこから小中一貫というものに発展していくという流れになる。どのように小中一貫、教科担任制をやっていくのか。その実績例がこれから示されてくると思う。そういった場合に高田と新鶴と義務教育学校になっていく本郷では違いが出てくると思う。同じ9年間のスパンでカリ

キュラムを立てても違いは出てくるし、今後、義務教育学校だけが素晴らしいものになるとも限らない。そういったものを、この委員会で、計画とか実践例とかを出して頂いて、意見を交わすというような仕組みになってくれば、本委員会も充実したものになってくると思う。本来この適正規模・適正配置委員会というのは、統廃合を検討する委員会である。その上で、より良い小中教育一貫にしていくためにはどうすべきかという事を、事務局はもっと真剣に考えなくてはならない。小学校と中学校の先生が義務教育学校になるために、同じ土俵に立って同じ目標でやるということが大切であって、前提や形ばかりを作ることが大事な訳ではない。小中学校の先生方の心の交流みたいなものを、どんどん一緒にやっていく必要があると思っている。非常に良いスタートが切れているのかなと感じている。小中一貫教育に向けての9年間のカリキュラムがそれぞれ高田、本郷、新鶴で編成されていくと思うので、それをここで出してもらって、親の代表とか地域代表とか来ているので、意見を吸い上げるということがとてもよいと感じている。

(委員) 社会人になるまでの間に非認知能力がこれから非常に重要になってくるということを知ったところだが、今のところこれを具体的にどのように学力向上の柱にしていくのか、教育長さんの方ではどのようなお考えで進めていくのか、お聞きしたい。

(教育長) どのように非認知能力を育成し学力向上に繋げていくかということについてだが、非認知能力については、これをやると必ずこの能力が伸びるといような物が、プログラムとして確認された物はまだそんなには多くないと思っている。いわゆる人間力というか、例えば物事に集中して取り組む力であったり、継続してやりきる力であったり、友達と協力して行動したり、コミュニケーション力であったり、或いは失敗しても前向きに挫折感なく進める力であったり、様々な力がある。こういったものについては、通説ではいわゆる幼児期ほど育ちやすいということで、私は幼児教育の段階でこれをきちんと育成することが重要だと考えている。当町には私が就任する前から、もう今より5～6年前から幼児教育と小中学校教育で育むべき美里っこ育成のためのプログラムがある。現在町内の小中学校の先生方が、高田小学校の校長先生を中心にプロジェクトチームで改善をしている。その改善したものを、来年再度、小中学校、こども園に配り、各こども園や小中学校の教育課程、カリキュラムの中に、そういうものを具体的に取り込みながら、日常の教育活動に活かしていこうというような事で進めていきたいと考えている。それから学力向上との直接的な因果関係は、今の所ははっきりと証明された実験があまりないが、労働経済学上の結果は沢山出ている。ただ生き方が変わる、そういうことで長い目でみた学力と言いうか、生きる力の育成に貢献できるものという様に考えているところある。

(委員) 本町の小中一貫校の目指す姿の教育ということで、算数・数学・英語という事で

三教科になっているのだが、その他理科とか社会も含めてもいいのではないかという意見と、県外にも義務教育学校を推進しているところがあるという事で、義務教育学校に変えてどうなったかというようなお話も次回あったら参考になると思う。

(教育長) 先ほど説明させていただいたのは、あくまでもこれはイメージであり、挙げられた教科もこれは例示であり、この他実際に学校が計画的に、それから学校運営協議会の中で話し合われた中で具体的なものが決められていくという風に思っている。あくまでも例示という風にお考えいただきたい。それから先進校については、この夏に既に郡山の西田学園と須賀川の稲田学園については視察させていただいている。それぞれの成果とか課題とかも聞いているので、次回あたりにお示しすることは可能だと思っている。

4 その他

※次回の日程

5 閉会

(午後 8 時 10 分散会)